

ぐちゅう おしょう
愚中 和尚

1323（元亨3）年～1409（応永16）年



室町時代の禅宗の僧侶で、三原に「仏通寺」を建てた人です。美濃の国（岐阜県）に生まれました。なまえは周及とい
います。

13歳のとき京都で夢窓疎石というえらい僧侶について勉強しました。18歳のころ、中国（元という国）に行き、即休
契了という僧侶のもとで7年間修行をしました。その後、日本に帰ってからは、山の中できびしい修行をして、りっぱな僧侶
になりました。

そのころ、安芸国沼田荘（現在の本郷町）をおさめていた小早川春平に招かれて、愚中和尚は現在の三原市高坂
町に「仏通寺」を建てました。当時の仏通寺には多くの寺院があり広大なお寺で、全国でも有名な禅道場として知られた、
臨済宗仏通寺派の大本山です。

僧侶で画家でもあった雪舟がつくったと伝えられる庭園などが、今でも仏通寺に残っています。
仏通寺という名は、中国で修行したときの先生であった即休契了の、もう一つのなまえである
仏通禅師からつけたものです。



巨蟒橋